

介護従事者の「気づき」の力を高める研修会

利用者本位のサービスを提供するには、利用者のことを良く知ることが大切です。

しかし、多忙な現場においては、利用者の思いや状況に『気づく』のは簡単なことではありません。また、忙しくても『気づける』職員がいる一方、さほど忙しくなくても『気づけない』職員がいることも事実です。職員による『気づき』の差は、サービスの質にも影響します。利用者の『訴え』、『体調の変化』、『危険な状況』を気づかずにいることで、BPSD（周辺症状＝徘徊、拒否、暴言・暴力、不穏、帰宅願望等）が現れたり、病気の重度化や感染症の蔓延に至る他、場合によっては重大事故に発展してしまうこともあるかもしれません。

利用者が心地よく安心して生活していくためには、個々の職員の『気づき』の力を養うことが求められます。また、『気づき』の力を高めるには、五感（味覚、聴覚、視覚、嗅覚、触覚）を働かせることとともに、高齢者領域の知識と経験及び情報の共有も極めて重要です。本研修では『気づき』の力の基礎となる①洞察力（ひとつの現象で、何が起きているかを見抜く力）、②問いかける力（探究する心）③発見力（いつもと変わらなく見える状況であっても、何か課題がないか掘り下げることのできる力）、そして自省力（自分の内面を客観的に振り返ることのできる力）を、介護の場面別（食事、入浴、排泄、移乗等）から演習等を交えて高めて参ります。是非この機会に研修にご参加いただき、職員の『気づき』の力を高めるきっかけにして頂きたいと思っております。

11/16 9:30~16:30 受講料金 11,000円

	研修内容	詳細
①	I. 『気づき』の基本	①『気づき』とは ②『気づき』を高める重要性
②		①介護事業所で求められる『気づき』について ②危険予知について
③		①『気づき』を高める3つの力
④	II. 『気づき』の力を高めるために	① 利用者を知る ②環境を理解する ③医療の知識の必要性
⑤		①介護の基本的な特性を理解する ②経験及び情報の共有の重要性
⑥		①『気づき』の力を高める取り組み ②リスク感性を高める
⑦		①演習 ②まとめ

講師	田島 利子先生 介護福祉士・介護支援専門員 グループホームあんずの家 ホーム長	日本でもモデル的なグループホームの礎をつくったグループホーム管理者。現場の業務に精通したスペシャリストで、介護現場の実情を踏まえた実践的な講義が好評。25年以上の大変豊富な知識と経験を兼ね備えた専門家。事業所での研修やコンサルテーション等を行っている。
----	---	--

【受講者の声】 ●日々の業務に追われるなかで、いかに自分が観察力・洞察力に欠けているか気づかされた ●自分自身の仕事への姿勢・現状の問題点を考えるきっかけになった ●トレーニングによって気づきの力は向上するものだとわかって安心した ●演習でいろんな方の意見や気づきが聞けて良かった ●KYTを知れてよかった ●施設ですぐに試せると思う ●経験や立場に頼って気づきの力が鈍くなっていることを痛感した良い機会となった ●事業所全体で「柔軟な心」を育てる事を意識したい 他多数

申込方法：電話、ファックスにて受付いたします。締切：全て先着順になります（80名）

問合せ先：お茶の水ケアサービス学院 事務局

TEL：03-3863-4000 FAX 03-3863-4006

受講対象：介護従事者全般、事務職員等

研修会場：道特会館 札幌市中央区北2条西2丁目26番 JR札幌駅徒歩5分

FAX 03-3863-4006

ネット配信加入者は半額で受講可

お名前	フリガナ	事業所名	ネット配信の加入の有無	有・無
住所	(〒 -) (事業所・自宅)			
TEL	FAX	e-mail		

※お申し込み後（申込日を1日目とします）、7日目以降のキャンセルについては、お振込前でも受講料の半額がかかります。また、申込日に拘らず11/2以降のキャンセルについては全額のキャンセル料がかかりますのでご注意ください。

※キャンセルのご連絡がない場合は、キャンセル扱いにはなりませんのでご注意ください。